

地区名 大仙市・仙北市・仙北郡

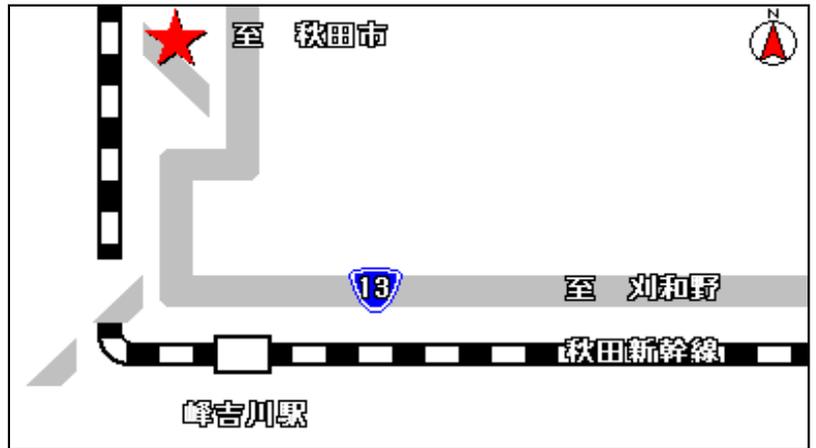
所在地 大仙市協和峰吉川

バス駐車 ○ 大地のつくり

トイレ × **水のはたらき**

露頭までの道のり

国道13号線を協和の峰吉川駅から秋田市方面へ北上し、国道と併走する奥羽本線をくぐる脇道に入ると、右手に見えてくる。



安全上の留意点

観察できる場所が広く、死角になり得る場所もあるため活動場所はあらかじめ限定しておく、安全である。車が上っていける細い道があり、児童も上ると考えられるが崖から落ちないように十分注意する。

観察のポイント

- ①大きな地層の広がりを感じる。
- ②地層が奥まで続いていること。
- ③川原で見えるような円礫があること。
- ④角ばった火山岩が見あたらないこと。

地質年代

新第三紀中新世後期(約1100万年前頃)

解説

船川層と呼ばれる比較的柔らかい泥岩の層が観察でき、角ばった火山岩などはないので「水のはたらき」でできた大地だと判断できる。観察場所に向かうまでの道端には角の取れた丸い礫も落ちていることがあるが、この地層由来のものではなく外部から持ち込まれたものと判断したほうがよい。

露頭に植物が水平に生えている様子が観察できるが、その境界線で地層の種類が変化している。具体的には、砂層と粘土層の境目に植物が生えている。

(筆者独自調査)

露頭概観

指導形式

B



植物の生えている層の上部に色の濃い砂の層が見られることがある。砂の層を通った水が、粘土の層で止められてしまうことで植物が生えると思われる。



色の白い粘土の層を手にとると、とてもさらさらしており、粒を感じられないほどである。



色の濃い層(砂の層)から取り出したものの手触りは、粘土の層とは明らかに違う。粒を感じられるざらざら感がある。